

塾長あいさつ

荒井貞夫



「日本の平和と朝鮮戦争」

8月は6日、9日など思い出す日が多い。15日はお盆休みだが、終戦(敗戦)記念日で毎年帰省して兄弟姉妹と会って食事しているときにテレビからは戦没者慰霊式典の様子が流れてくる。今の日本は平和な時代を78年間維持している。戦争をしない、平和の配当で多くの国民は落ち着いた暮らしをしている。最近の日本の総合力・競争力は落ちているが、戦争をしない、戦争に巻き込まれない事が国民の幸せにつながっていると思う。

インドネシアは8月17日(インドネシア独立1945年)、お隣の韓国は光復節(1910年日韓併合から解放された日)は8月15日である。8月に特別な思いを抱くのは日本人だけでない。韓国は一人当たりのGDPは日本を抜いた。その韓国では忘れられない日がある。それは朝鮮戦争だ。今年は休戦から70年だ。私が好きな韓国には今も忘れられない戦争が続いている。今は休戦中なんだ。日本が負けて多くの国民が苦しんでいる時に韓国では南北戦争が起きた。日本はこの戦争で米軍への物資供給(朝鮮戦争特需)で戦後の苦しみから脱却できた。

朝鮮戦争の経緯

朝鮮戦争を巡り、1953年に国連軍と北朝鮮軍、中国軍の3者が休戦協定に署名してから7月27日で70年だ。日本の敗戦後、朝鮮半島は北緯38度線を境に米軍とソ連軍が南北に分割占領した。1945年8月15日に南側で「大韓民国」、同じく9月9日に北側で「朝鮮民主主義人民共和国」が樹立し、朝鮮半島は東西冷戦構造の最前線となった。

板門店



1950年6月25日北朝鮮軍が38度線を越えて南進。米国は「侵略行為」と非難した。7月、ソ連が欠席した国連安全保障理事会の決議で米軍主体の国連軍派遣が決まり、韓国軍を支援した。

北朝鮮側は釜山の近くまで攻めたが、マッカーサー率いる国連軍の仁川(インチョン)上陸を機に9月、韓国側がソウルを奪還。10月に38度線を越えて平壤も占領し、一部は中朝国境に達した。同じ月、中国が派兵すると形成は逆転。北朝鮮側は51年1月にソウルを再占領し、2ヶ月後には再び韓国側が奪い返した。

戦線は 38 度線で一進一退を繰り返し、51 年 7 月に停戦交渉が始まるが、境界線の位置や捕虜の扱いで難航。53 年 3 月、ソ連のスターリンの死後に交渉が本格化した。新たな軍事境界線が敷かれ、南北各 2km が非武装地帯(DMZ)とされた。南北分断の固定化で多くの離散家族が生まれた。中学生の時に白黒だったが「火を噴く38度線」という映画を観た。釜山まで押し込まれた韓国が反撃してゆく様子を覚えている。

韓国出張と板門店

昭和 49 年(1974)7 月(35 才)韓国総合化学株式会社向けの 25 トン積アンモニアタンク車 35 両の図面承認があって、私は韓国へ出張した。これが最初の海外出張だった。アンモニアは高圧ガスでタンク車は蕨工場ではなく豊川工場で設計製造していたが、車輛技師長室の私が図面承認交渉を担当した。私が設計から海外案件へ踏み出す第一歩となった。



ソウルからアンモニア製造工場がある忠州まで車で半日かかった。何処までもポプラ並木が続いていた。村をいくつも過ぎた。家々は貧しく屋根が藁だった。瓦屋根になるのはセマウル運動(新農村運動)が始まってからだ。

多くの農村を過ぎるとき小学校は運動場もあって立派だった。これは日本の統治下で整備された。いくつも川を越えた。橋の欄干に「大正～年」と刻んであった。ソウルでは戒厳令が敷かれていた。

最初の海外出張は思い出が深い。南北を分ける 38 度線のある板門店を見学した。



←板門店の中
テーブルの上の白い線(コード)が 38 度線で写真の左側が北側になる



板門店の近く。北へ通じる「帰らざる橋」が見える。この橋を越えると南へ戻れない。

ウクライナが苦しんでいるが、国連は何も出来ない。70 年前は国連軍が創設されたのに。8 月 15 日が毎年複雑な思いの日になるのは私だけではないと思います。



笑楽日塾8月 塾会報告

今期日 2023年8月10日 17時30分～19時30分

会 場 スポーツクラブNAS蕨 5階ロイヤルルーム

出席者 内田、高木、先崎、吉田、新井(邦)、新井齊、星、南、清藤、八木、荒井

欠席者 菊地、荒川、長谷川

2020年2月20日以来となる顔の見える塾会となりました。

会場は3年半前と同じスポーツクラブ NAS 蕨5階のロイヤルルーム、休館日に総支配人・森武大輔氏のご厚意により適度にエアコンが効いた部屋で気軽に談笑する事が出来ました。

八木さん・吉田さん・先崎さん・高木さんをお願いして5時にNASへ集合し、マルエツへ弁当(鮎・カツカレー)、ビール・大吟醸・赤ワイン・白ワイン、おつまみを買いだし。

南さんから美味しいワイン2本差し入れがありました。



世間話を始めいろいろな話題が語られました。意外にも病気とか健康とか体の事が話題にならなかったのは、各自がシニアとして充実した日々を過ごし、いろいろな所で何かしら関わりを持っていて、そこから生み出される豊富な話題を持っているからと感じました。

例えば、夏祭り(盆踊り)の準備を6月から始めて、8月に決算が終わった(約80万円近い費用)。2日間で4千人ぐらい踊った。

公民館の建物検査を蕨市の委託を受けて実施した。それぞれの公民館で何らかの欠陥が見つかった。マイナーカードのエラーが多い。入力間違いは何処にでもある。初期故障のようなもんだから軌道に乗るまで騒がない方がいい。同姓同名同誕生日もあり得るから名寄せしてもミスは生じるだろう。

マイナンバーカードがないとスマホを登録出来ないようだ。

みんなが注目したことは蕨駅西口再開発だった。

蕨駅西口再開発の工事はいつから始まるのか気にされている方が多くおられます。8月2日に指名された大手建設会社3社による入札の結果、前田建設が新築工事(28階建て2棟420戸)を受注したようです(公式発表はない)。9月から工事着工の見込みのようですがその前に近隣への住民説明会が開催されます。

2022年8月から解体工事を請け負っていた戸田建設は今年6月20日に解体工事が完了した。その戸田建設は指名入札から除外されてしまった。色々噂はあるが、真相は不明。

議会も問題視していない問題

高さ3mの真っ白な塀で囲まれて中は見えないが、その塀に「建設計画の概要」が貼り付けてある。それには竣工予定が2025年8月と記載されている。これから2年で完成する訳がない。コンサルタント会社は、竣工は2027年3月と見ている。約3年の遅れを誰も責任を取らない。

3年間に失われる蕨市の滅失利益は

固定資産税 150,000円×420戸×3年=1.89億円

住民税 40,000円×420戸×3年=0.5億円

合計2.39億円

これから4年近く我々は駅へ行くのに迂回せねばならない。ロータリーが整備された蕨駅西口を一日も早く見たい。

蕨が他市より遅れている問題は他にも沢山ある。その一つが蕨駅東口の再開発だ。頼高市長は20年間ほったらかしだ。塚越方面から蕨駅へバスで来る人たちは500mも歩いて駅へたどり着く。何故、東口駅前を再開発しないのか。

我々シニアが身近な問題を語り合い、必要な対策を市議会へ訴える事も考えたい。



「会計報告」

会費@1500円×11名=16,500円 買い物(マルエツ) 17,378円

完



「シニアの風」

(順番制で行います。)

2023年9月「シニアの風」投稿は吉田 喜義さんですので宜しくお願い致します)

コロナ旋風後の「子ども教室と土曜塾」

新井 邦夫

令和5年は「4年ぶり」の言葉が枕詞のように各種イベントに使われ、何事もなかったように元気を取り戻し、観光地も賑わいをみせています。一方、幼児に拡大している新たな感染症も油断できない昨今です。

個人的には楽しい話題もなく身近なテーマについて記述したいと思います。



3年ぶりの放課後子ども教室で98名の子ども達に会い、スタッフの皆さんも元気づけられた1年であったと思います。

新型コロナウイルスの再々拡大を防止するため参加人数を考慮し、教室での予防対策を可能な限り対応し楽しそうな笑い声や話し合う声が飛び交い、以前と同様のひと時を取り戻すことが出来ました。

この数年間は小学生に限らず社会人も含めコミュニケーションの機会が大きく失われました。また教育の場では感染予防についても、大きく悩まされたことと思います。特に低学年の小学生にとっては、仲間づくり大切な時間を思うように過ごせず、歯がゆい日々ではなかったでしょうか。



開設日初日、授業を終えた生徒たちが一目散に子ども教室に来て、決められた机に向かい宿題を早々と済ませ、「本を読む子、ビーズやゲームに興ずる子、特活室で身体を動かす子、ボールを抱え校庭に飛び出す子」など何時ものように、のびのびと元気な姿をみせてくれました。





一人一人が異なる感情を持ち合わせた子供たちは、互いに会話を交わし、遊ぶことなどを通し、また子ども同士の言い争いにはスタッフが優しく、ときには厳しく声掛けを繰り返すこともあります。これらを繰り返しながら少しずつ成長していくものと期待しています。

1 学期後半から 2 学期には子ども同士の関わり合いにも変化が現れ、小さな成長を知ることが出来ます。

高学年は、授業や部活動で課せられた課題を、パソコンを用いて取り組んでいる光景が見受けられ、頼もしい限りです。これからは、デジタル機器を用いた生活が当りまえの社会となってゆくことは言うまでもありません。

正しい利用方法を学び、将来へ活かせるよう応援しています。



さて、「わらび学校土曜塾」の子ども達は、放課後子ども教室より少し早く開始しました。コロナ感染が少し落ちつき始めた時期でしたが参加人数は5名程度でした。(教室が中央公民館となり遠くなったことも一因 か?)



少ない参加者の為、子ども達にはスタッフが付ききりで指導する場面もあり、また休憩時間は安全上、室内に限定し「ミニピンポン」で身体を動かし、余裕のある運営が出来たものと思います。

本格開始の令和 5 年度は 24 名の子ども達(過去ピーク時同様)が参加し賑やかな「土曜塾」を取り戻し、グループ対抗漢字学習、体験科学教室も復活し充実した「土曜塾」を太田塾長のもと進めております。

以上の 2 つの活動はスタッフ(実行委員)各位の協力なしでは、子ども達を安全に見守ることはできません。スタッフの皆様には深く感謝する次第です。



以上



八木 守

『 打ち水:うちみず、うちみづ 』

季語:打ち水



今はそんな光景は蕨のどこにも見当たらないですが、蕨に引っ越して来た小学校6年の夏休み、家の周りは田圃が沢山あり、道はジャリ道。夕方になるとカエルの合唱がうるさく感じられました。

暑さを和らげて涼を得るため、そして埃を沈めるために庭や路地、玄関などにブリキで出来たバケツに水を入れ、柄杓を持って撒いていました。その水を「打ち水」と言います。

子供にとって夏休みの夕方に庭に水を撒くことはとても楽しい仕事でした。

打ち水におすすめの時間帯である朝と夕方は、多くの植物の水やり時間と同じです。たまにはスニーカーではなく、自然の材質で出来た下駄か草履を履いて、作務衣か甚平で朝散歩などちょっと粋で良いと思いませんか。



7頁



完